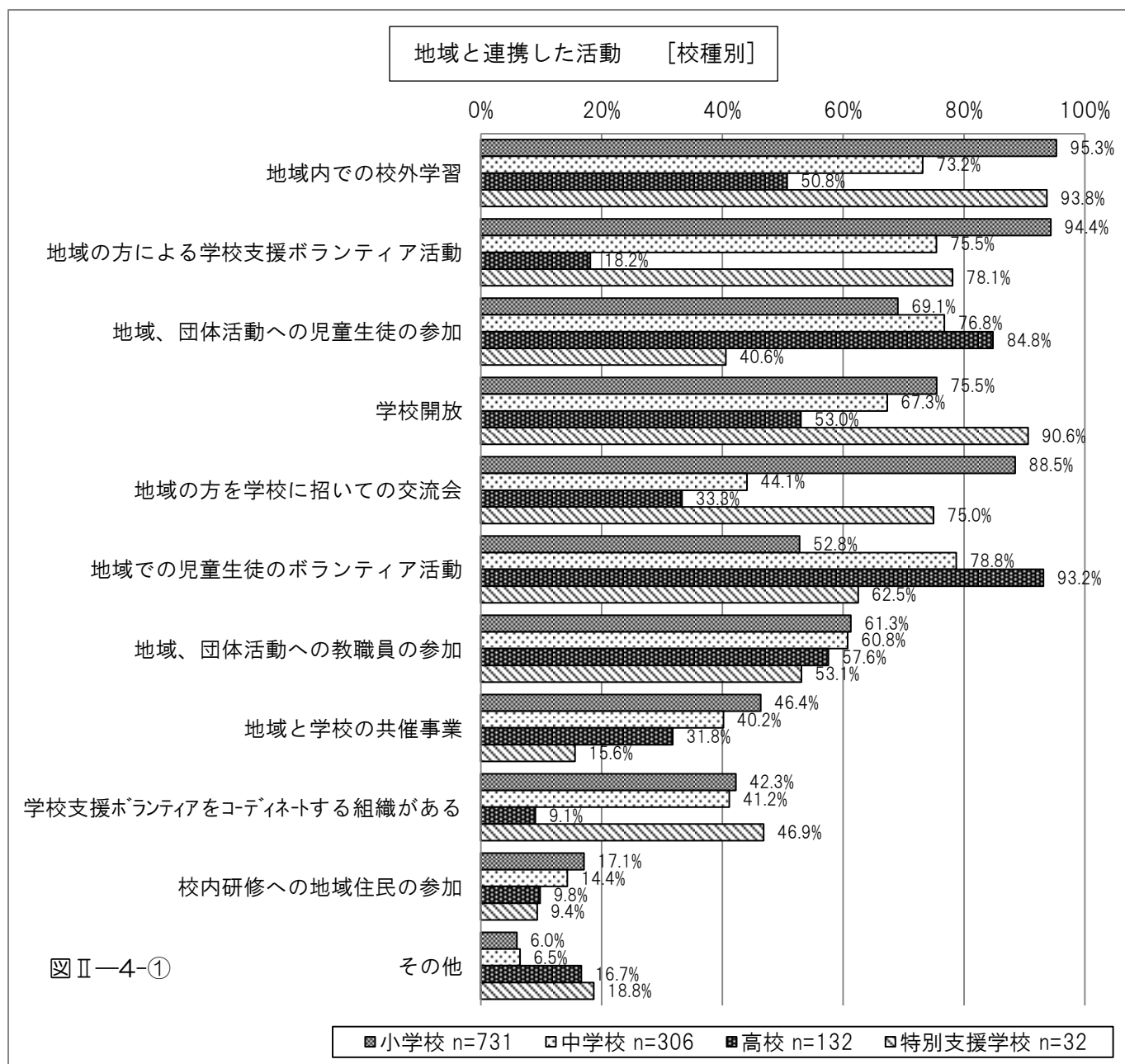


4 アンケート調査結果 ～ クロス集計 ～

4 アンケート調査結果 ～クロス集計～

貴校では、次のような地域と連携した活動を行っていますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。



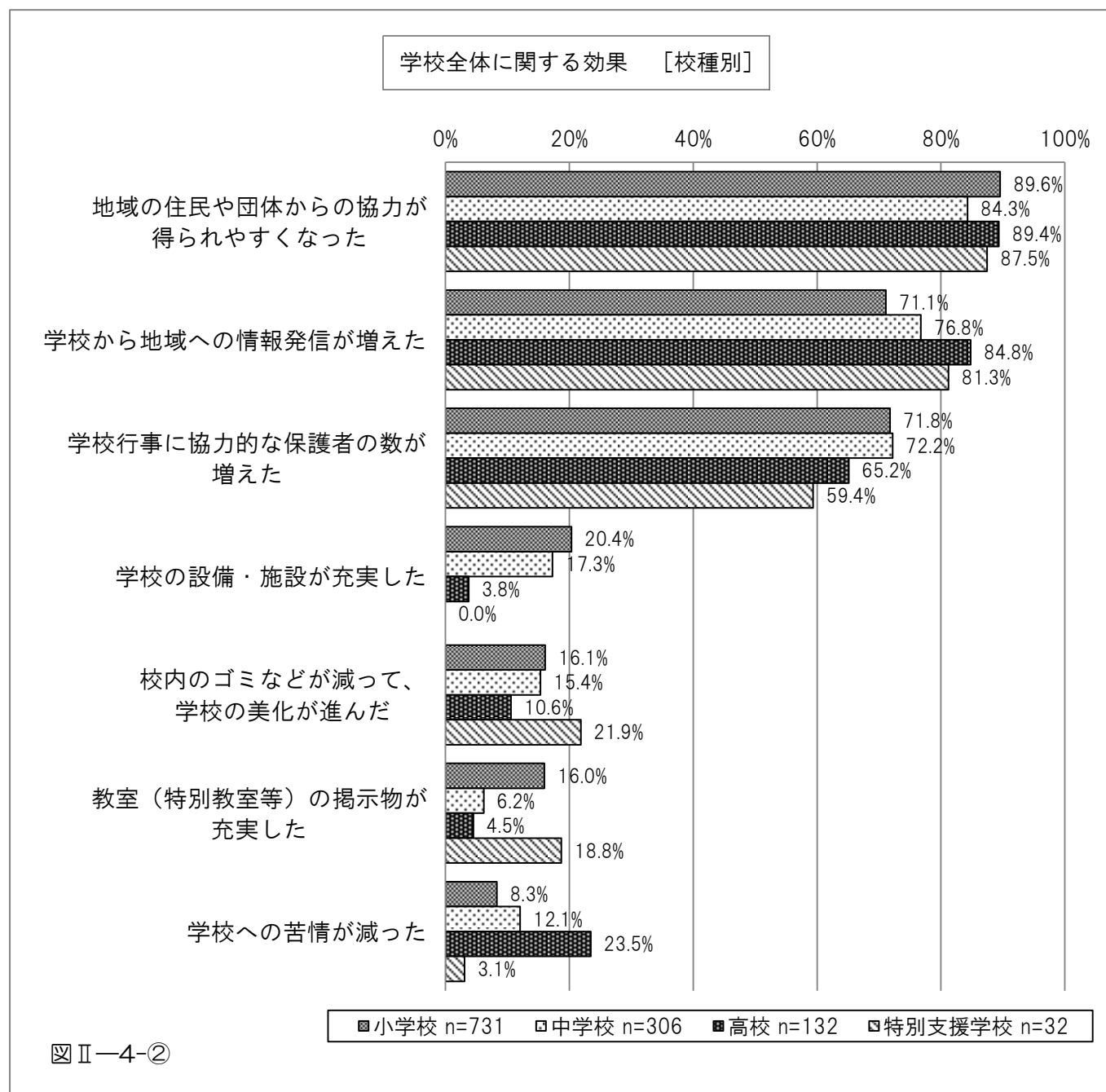
小学校や特別支援学校では、「地域内での校外学習」が最も値が高い。「地域の方による学校支援ボランティア活動」や、「地域の方を学校に招いての交流会」「学校開放」なども高い値を示している。地域の方に教えていただいたり、支えていただいたり、学校に来ていただくような、学校内で地域から支援を受ける連携活動が特徴となっている。

中学校は、「地域内での校外学習」や「地域の方による学校支援ボランティア活動」の値が高い。これらのように小学校と似た特徴も見られるが、「地域での児童生徒のボランティア活動」や「地域、団体活動への児童生徒の参加」も高い値を示している。小学校の特徴も踏まえつつ、地域に出て地域に貢献する連携活動が増えているのが特徴である。

高校では、「地域での児童生徒のボランティア活動」や「地域、団体活動への児童生徒の参加」で、高い値を示している。地域に出て地域に貢献する連携活動が、中学校よりさらに顕著に見られる。また、「学校を支援するボランティアをコーディネートする組織がある」の値が極端に低く、「地域の方による学校支援ボランティア活動」の値も低いことが特徴となっている。

地域との連携活動により、学校経営にどのような効果があったと思いますか。次の①～⑫について、【学校全体】【教職員】【児童生徒】【地域社会】の 카테고리ごとに、もっとも当てはまると思われる項目3つに○を付けてください。

【学校全体】



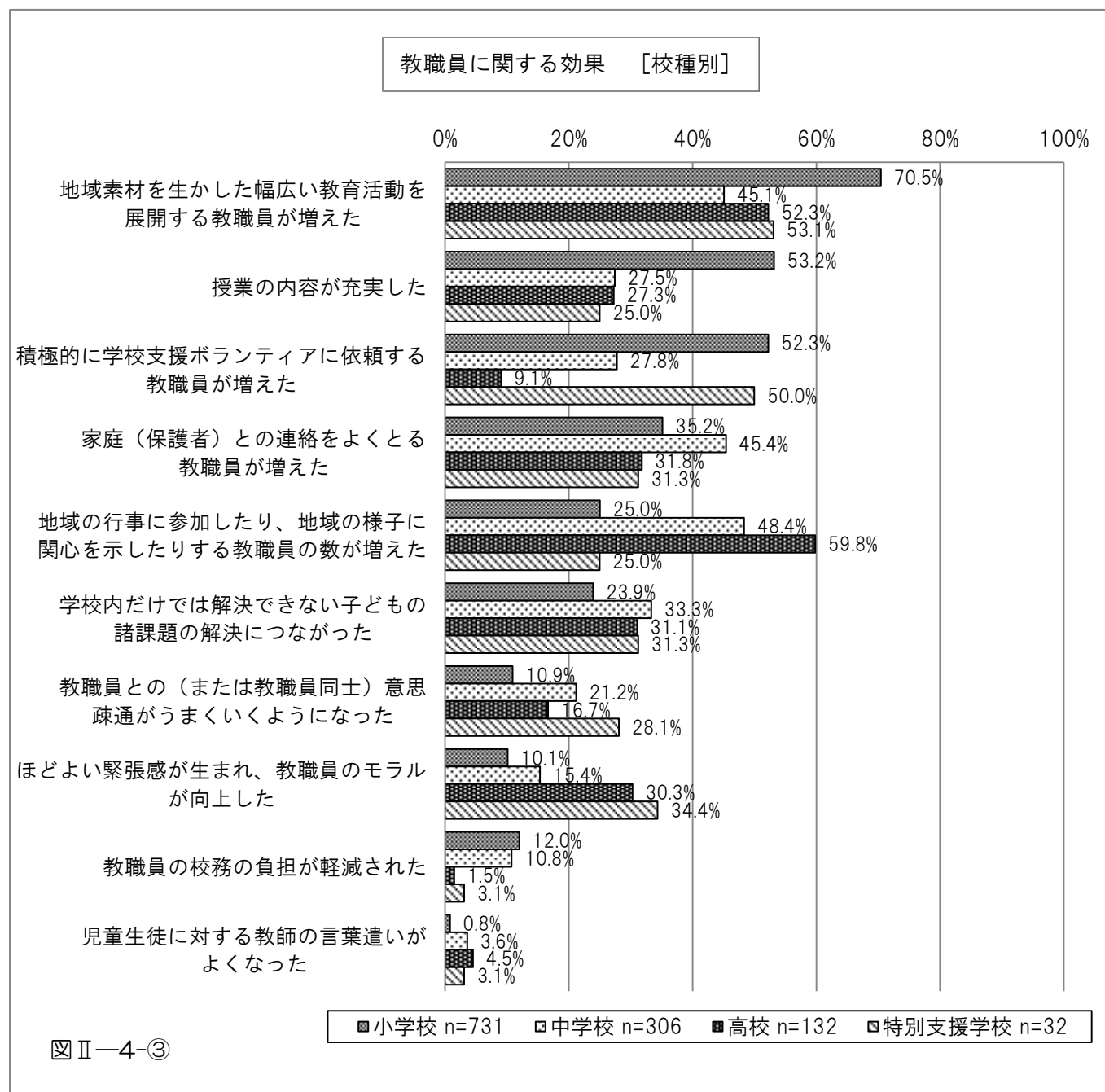
「学校全体」に関する効果においては、「学校の設備・施設が充実した」が、小学校や中学校で他の校種より高い値を示していることが特徴となっている。

また、「教室の掲示物が充実した」では、小学校・特別支援学校で高い値を示している。

特別支援学校では、「校内のゴミなどが減って、学校の美化が進んだ」などの効果で他の校種より高い値になっている。

高校では、「学校への苦情が減った」という効果が他校種より高い値になっている。

【教職員】



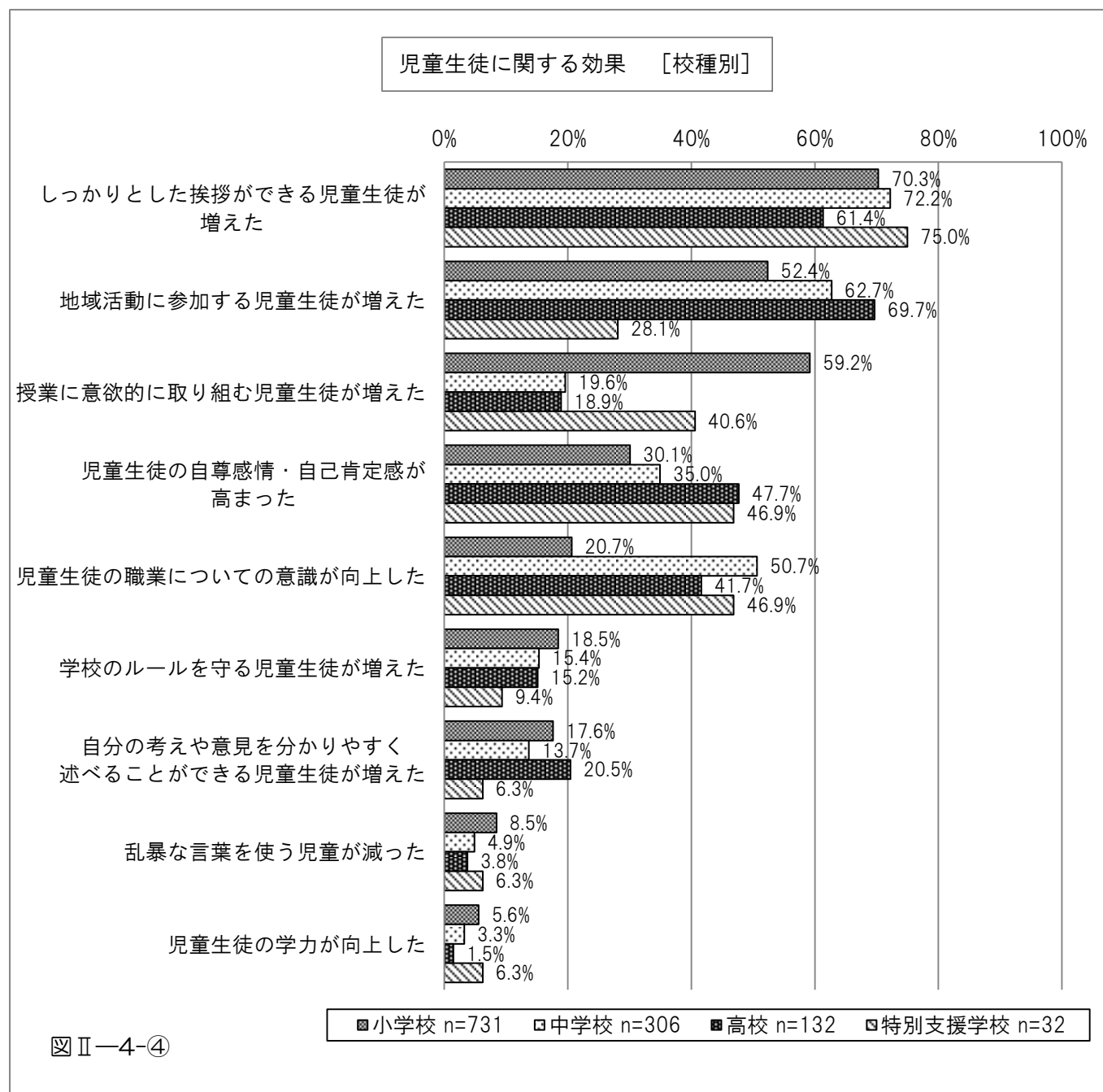
「教職員」に関する効果において、小学校では、「地域素材を生かした幅広い教育活動を展開する教職員が増えた」「授業の内容が充実した」「積極的に学校支援ボランティアに依頼する教職員が増えた」で他の校種より値が高くなっている。「積極的に学校支援ボランティアに依頼する教職員が増えた」では、特別支援学校においても高い値を示している。地域連携に学習面での効果を期待しているためではないだろうか。

中学校では、「地域の行事に参加したり、地域の様子に関心を示したりする教職員が増えた」「家庭との連絡をよく取る教職員が増えた」で、値が高くなっている。家庭を含めた地域との関わりを持つという傾向が見られる。

高校では、「地域の行事に参加したり、地域の様子に関心を示したりする教職員が増えた」で、高い値を示している。中学校・高校では、教職員が生徒とともに地域貢献するという連携活動が特徴としてよく現れている。

また、小学校・中学校では、「教職員の校務の負担が軽減された」、高校・特別支援学校では、「程よい緊張感が生まれ、教職員のモラルが向上した」で他校種より高い値を示している。

【児童生徒】



「児童生徒」に関する効果において、「地域活動に参加する児童生徒が増えた」が、小学校・中学校・高校で特別支援学校よりも高い値を示している。P43「地域と連携した活動[校種別]」グラフの「地域、団体活動への児童生徒の参加」で、これらの校種が高い値を示していることと関連している。

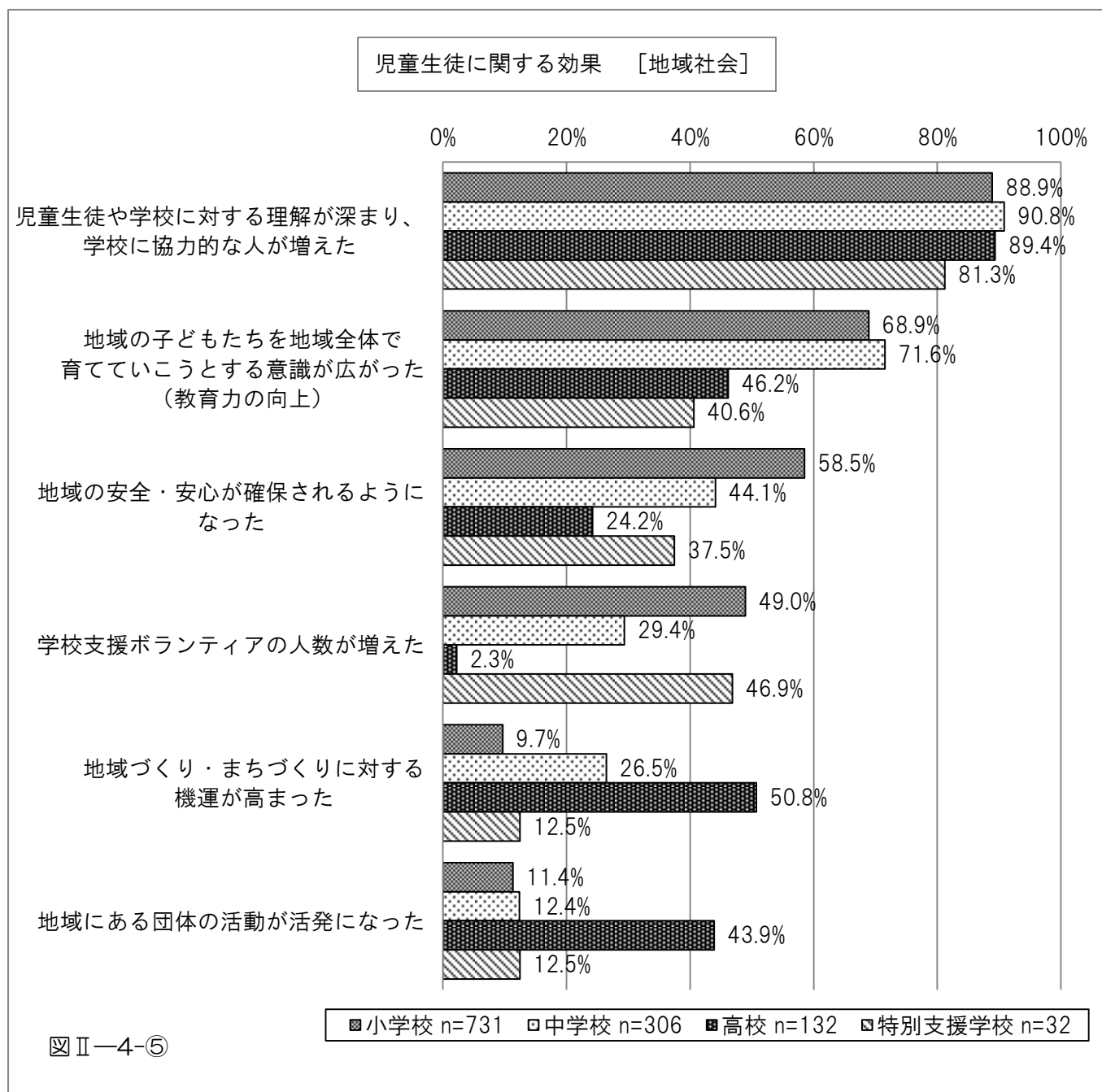
「授業に意欲的に取り組む児童生徒が増えた」では、小学校・特別支援学校で値が高い。「児童生徒の自尊感情・自己肯定感が高まった」においては、高校・特別支援学校で、他校種より高い値を示している。

その他、「自分の考えや意見を分かりやすく述べる児童生徒が増えた」においては、小学校・中学校・高校で、特別支援学校と比べて値が高くなっている。

また、「児童生徒の職業についての意識が向上した」では、中学校・高校・特別支援学校で小学校に比べて高い値を示している。就職に対する意識の違いによるものではないだろうか。

「教職員」に関する効果では、「地域素材を生かした幅広い教育活動を展開する教職員が増えた」や「授業の内容が充実した」が比較的高い値を示しているのにもかかわらず、「児童生徒」に関する効果では、各校種共に児童生徒の学力の向上には、大きく作用していないと感じている。学力を向上させるためには様々な手段があり、地域との連携の効果には直接的には結び付きにくかったり、すぐに結果には現れにくかったりするもので、このような結果になったものと思われる。

【地域社会】

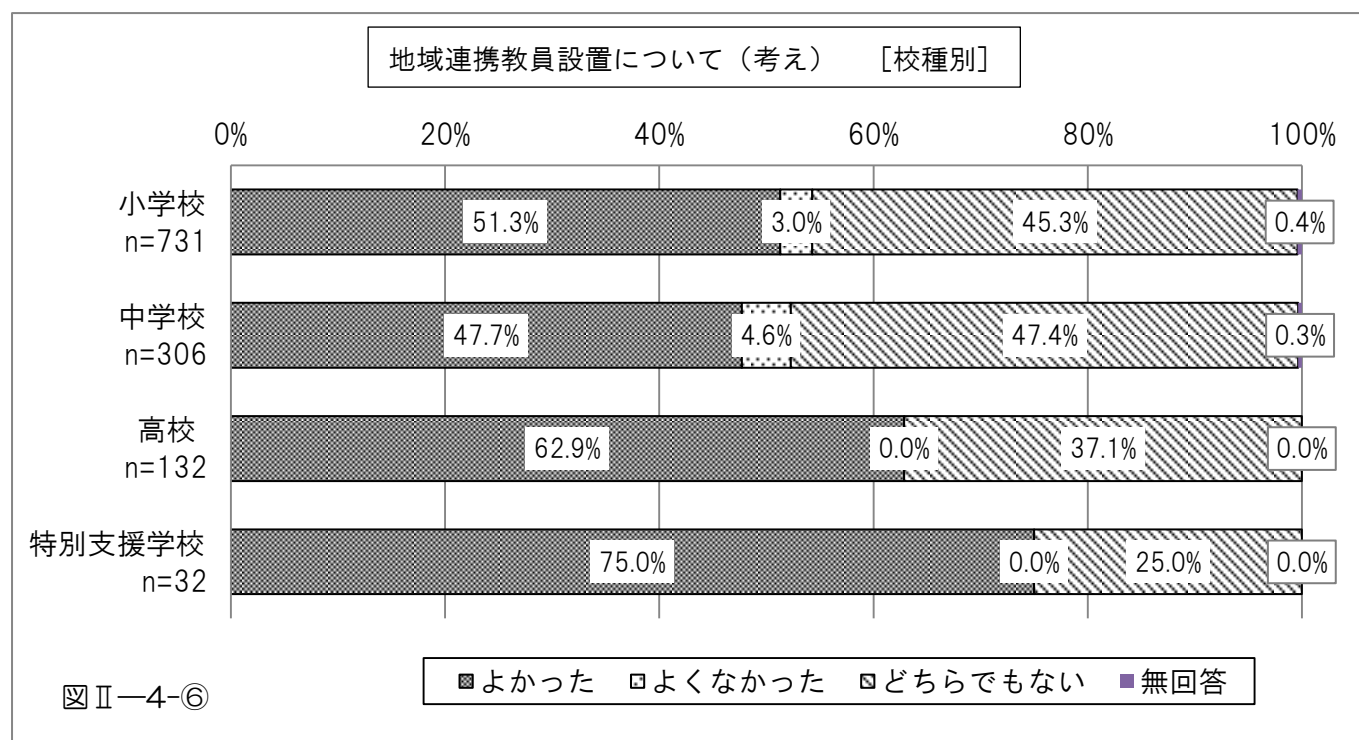


「地域社会」に関する効果において、全ての校種で「児童生徒や学校に対する理解が深まり、学校に協力的な人が増えた」が最も高い。

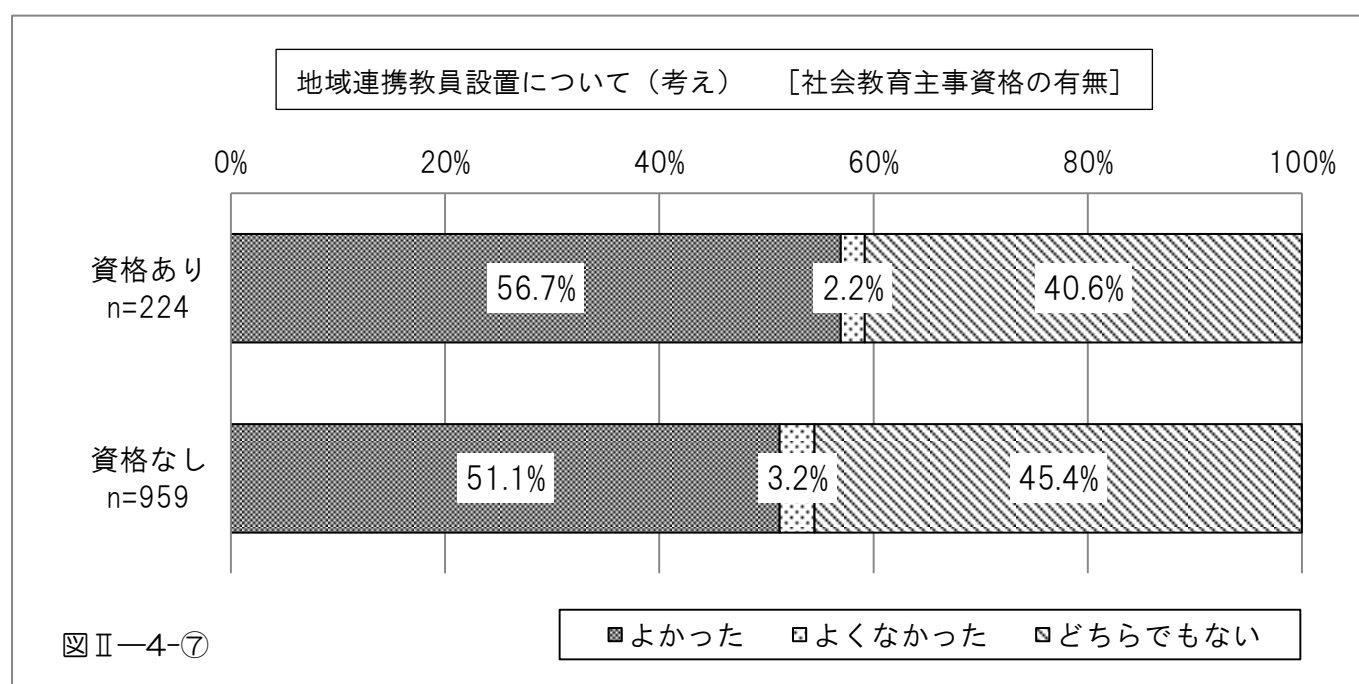
「地域の子どもたちを地域全体で育てていこうとする意識が広がった」でも、小学校や中学校では高い値を示している。加えて小学校においては、「地域の安全・安心が確保されるようになった」でも、他校種より高い値を示している。小・中学校については、地域との連携を進めることで、地域には「地域の中の学校」という意識が定着してきていることがうかがえる。

「学校支援ボランティアの人数が増えた」で、小学校・特別支援学校では他校種と比べて高い値を示した。高校では、「地域づくり・まちづくりに対する機運が高まった」「地域にある団体の活動が活発になった」で値が高い。逆に「学校支援ボランティアの人数が増えた」が最も低い。

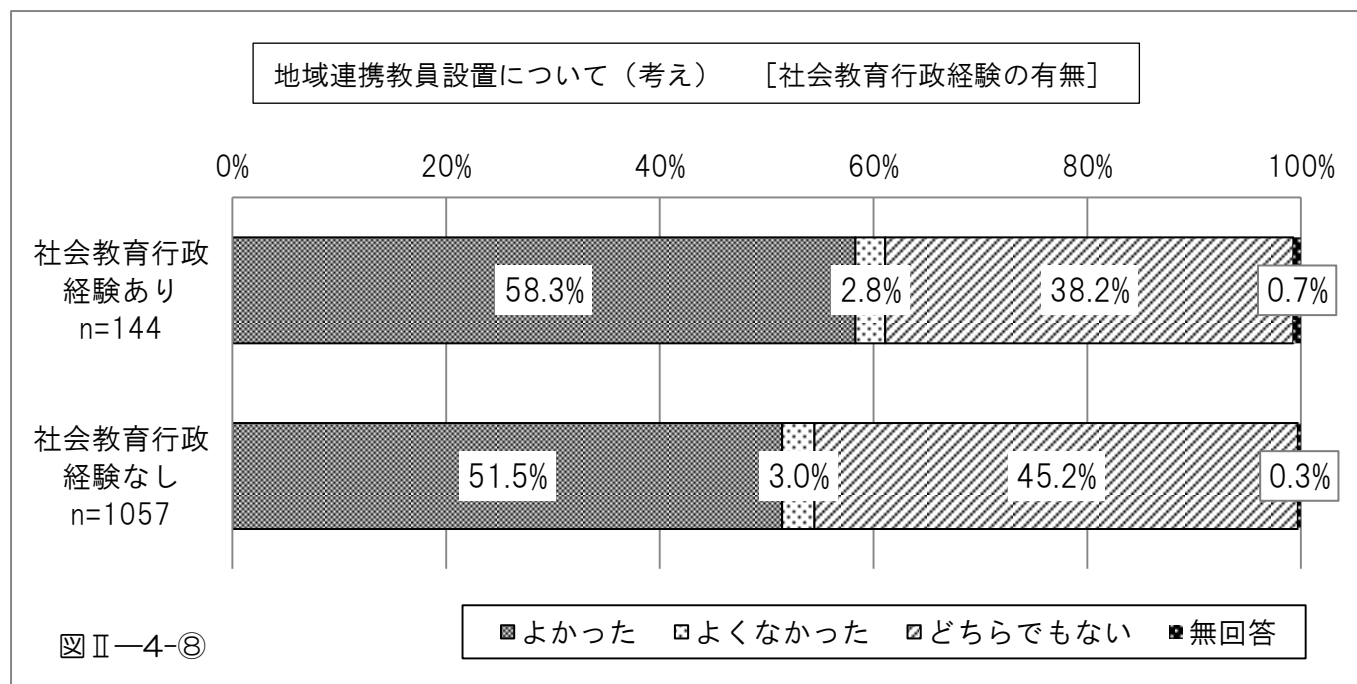
学校経営上、地域連携教員の制度について、どのように考えますか。



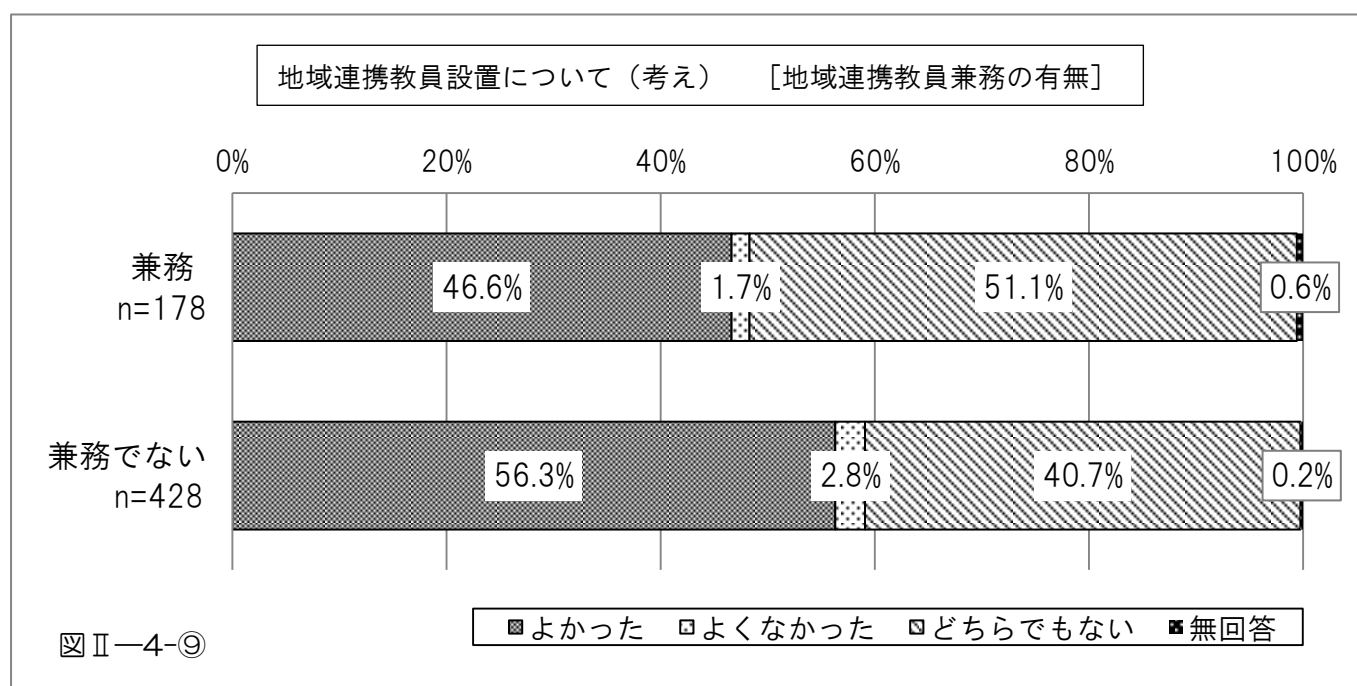
「校種別」に比較してみると、小学校、高校、特別支援学校で、「よかった」の値が過半数を超えている。中学校では、「よかった」の値は 47.7%で過半数を越えていないが、「どちらでもない」の値は4つの校種の中で最も高い。その理由については、前述した「地域連携教員の制度についての考えの主な理由」（P16～17）の中にもあった「今後、進めていく中で、効果や課題等を把握して検討していく。」や「担当教員が増員になるのなら効果があるが、単に事務の増加を招いただけである。予算措置のない事業はありえない。」などが挙げられる。



「社会教育主事資格を有しているか、有していないか」で比較してみると、社会教育主事有資格者が「地域連携教員の制度がよかった」という値が高くなっている。



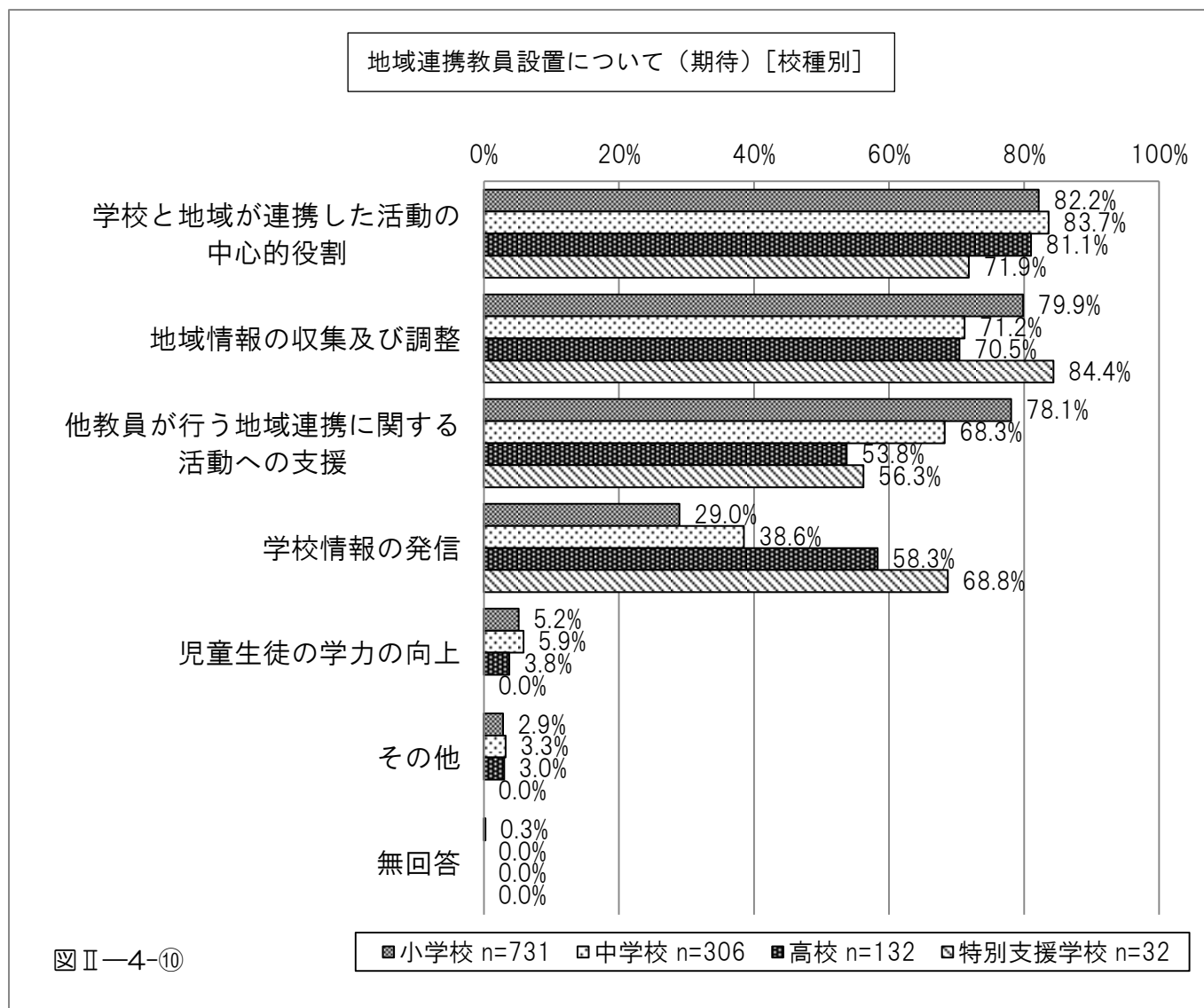
「社会教育行政経験があるか、ないか」で比較してみると、社会教育関係の職種に就いていた回答者が、「地域連携教員の制度がよかった」という値が7ポイント程度、高くなっている。



教頭が「地域連携教員を兼務しているか、していないか」で比較してみると、「よかった」という割合が、兼務していない教頭の方が10ポイント程度高くなっている。その理由については、前述した「地域連携教員の制度についての考えのよかった主な理由」（P17）の中にもあった「教頭と地域連携教員の役割が明確化されたこと」や「教頭先生の負担の軽減」などが挙げられる。

県全体の「地域連携教員の制度についての考え」のグラフ（P16）と比較しても、「よかった」と回答した値52.3%に対して、地域連携教員を兼務していない教頭は4.0ポイント、値が高くなっている。

地域連携教員にどんなことを期待していますか。当てはまるもの3つまで○を付けてください。



「学校と地域が連携した活動の中心的役割」「地域情報の収集及び調整」「他教員が行う地域連携に関する活動への支援」の順で高い値を示している。

高校や特別支援学校では、同様の3つの項目に加え、「学校情報の発信」で高い値を示している。また、特別支援学校では「地域情報の収集及び調整」が最も高い。